# 「市民と語る会」開催報告書

# 令和７年度１回目の「市民と語る会」を開催

７月５日、鹿角市交流センターを会場に、青垣山の自然と景観を守る会より申請を いただき、「市民と語る会」を開催しました。

市民と語る会には広報委員長を含めた議員 12 名が出席し、各議員が風力発電事業に対する考え方について述べたのち、その後、質疑応答を行っています。

**〈各議員の考え方〉**

**松村議員**　風力発電事業について賛成か反対かの立場は決めかねている状況にある。

とりわけ「災害リスク」と「健康リスク」について重要と考えている。建設予定地が尾根に位置することで土砂災害のリスクがどの程度あるか、低周波音や風車の影のちらつきが住民にどれほどの健康被害を与えてしまうか。人命に深刻な影響を及ぼす際には人命を最優先する形で慎重な判断が必要と考える。

**安保議員**　4月と5月の青垣山の自然と景観を守る会に参加しており、意見書も提出している。

最初は金銭的メリットから賛成していたが、健康被害や一度破壊された自然は戻ってこないことに警戒感を感じた。青垣山は鹿角市の皆さんの心のよりどころであり財産と考えている。

**綱木議員**　現時点で中立の立場で考えている。

事業者から話を聞く機会があったが、その時点では本格調査がまだということだった。今後、協議会を立ち上げ、本格調査の際に出た懸念される事項について解決に向けて話し合いを進めるとのことだったので、その結果を待ち判断したい。

心配事としてはボーリング調査をした際に農業に影響を与える有害物質が地下水に漏れ出ないか、景観が損なわれ世界遺産認定が取り消しにならないかは注視していきたい。自然の破壊に関しては、林業で森を切り拓くこともあるが、5～6 年もすれば再生し、より豊かな自然が生まれるのも見ている。人間は自然を利活用して生きてきたので環境破壊に直結するとまでは考えていない。

事業者からの情報公開を徹底していただき、意見交換の機会を作り、検討していければと思う。

**佐藤議員**　事業の実施には賛成の立場である。

原発事故が発生したことを振り返ると、発電所の発電をできるだけ抑え、再生可能エネルギーに置き換えていくことは大変重要なことと考えている。景観よりも経済合理性にのみ任せていると二酸化炭素排出量の削減が見過ごされそうな気がしており、その部分について心配している。この事業で再生可能エネルギーの普及を目的としており、経済合理性を追求することではないと考える。

**児玉議員**　現時点では立場については考え中である。

風車のプロペラが山々に並ぶ姿はとても考えられないという気持ちはよく理解できるが、マイナスイメージばかりでなくプラスの経済効果の面ももう少し検証するべきと考える。

鹿角市は人口減少によって財政的にも大変危機的状況にあると感じていることから、この風力発電事業の経済効果が鹿角市にプラスになるのであれば、それなりにプラスとして考えるべきと感じる。洪水が起こるのではないかなどのマイナス面も考慮し、市民の皆さんの意見も聞きながら考えを固めていきたい。

**丸岡議員**　再生可能エネルギーには反対はしないが、今回については立地にどうしても納得がいかない。

情報が少ない中で昨年の 12 月に一般質問をさせていただいたが、その時点での市民の皆

さんの反応は「風力発電ってなに？」という状況であった。もうその時点で事業は次の段階に進む状況だったわけであり、風力発電事業は今この段階で住民の意思をはっきり示さなければいけない時期に来ている。今の状態では反対である。

**成田議員**　賛成か反対かについては環境アセスメントの結果を見なければ判断できないが、この事業は必要だと思うという意味で賛成である。

事業者からの説明を聞く機会が少ないのは確かであると感じることから機会をできるだけ多く作ることが必要である。再生可能エネルギーにより企業誘致や電気料金が安くなることもあるかもしれない。今後の議論の中で反対となるかもしれないが、現時点では賛成として報告させていただく。

**浅石議員**　賛成反対等の意見は今の時点ではない。

景観を大切にしなければいけないとの意見もあるが、少子高齢化という問題の中で何かの事業はしていかなければ生き残っていけないのではないか。

私が経営している農業法人でも農業ができなくなった人が増え、毎年 3 ヘクタールほどずつ耕作依頼が増えている。また昨年生まれた孫の同級生が鹿角市全体で 63 人という少ない人数であり、これから少子高齢化にますます拍車がかかっていくことで 10 年後、20 年後にどうなってしまうのかを心配している。鹿角市を前に進めていかなければならない。

**宮野議員**　米代川源流自然の会で長年植樹を行ってきた。今回の事業については植林を続けてきた立場だから反対ということではない。

現在、事業者では環境調査を進めているがその内容を聞きながら、鹿角市にとってメリットがあるのかその点を考えていく必要がある。先日も設置予定箇所での環境調査の視察を行った。どのように調査が進められているのか、経済情勢も考えながら検討していく。

**栗山議員**　事業自体には賛成である。

鹿角市は 2030 年までの目標のもと、今の時代の潮流となっている二酸化炭素削減の流れをさらにいかにプラスにもっていくかを考えている。もちろん景観が変わってしまうのはあると思うが、すべて守るだけではできないことも多くあると思っている。カーボンニュートラル 2030 が最終目的ではなく、こういった風力等の事業に投資し、少子高齢化、人口減少、未来の子供たちが将来的に仕事に就くことができる。いい意味での時代に合った企業誘致にどんどんつなげていけるように発言を続けていきたい。

また、現時点では調査されてない部分がまだ沢山あるが、調査が進み内容が詳しくわかってから、防げるものはできるだけ防ぐ。プラスのものはできるだけ大きくしていくというのが私の意見である。

**兎澤議員**　現時点では、まだ賛成反対というところまでは決めていない。
私は、今の子供達が実際に大きくなって鹿角にずっと住み続けられるかどうかを基準に考えていかなければならないと考えている。

結論いいか悪いかは、細かい情報もなく、非常に曖昧な段階であることから、きちんと計算した上で賛成反対を決めていきたい。ただ、少子化高齢化が進んでいる中で、子供たちにとってこれだったら長く住み続けられる状況を作れると認識できればいいので、そのあたりを基準に私は考えていきたいと感じる。

確かに鹿角の景観も大事であるが、産業を残さないで果たして今の子供たちが経済的にどういうふうな状況になっていくのかということをしっかりと見極めた上で判断したい。

〈質疑応答〉

Q、20 年前に(株)ユーラスエナジーが青垣山に風力発電所を建設する計画があったとおっしゃっていたが、当時の状況について知っている範囲で教えていただきたい。風が強く風力計の鉄塔が倒され、それで断念したという話も聞いている。

A、風が強くて鉄塔が倒れたことはあった。20 年前に(株)ユーラスエナジーが撤退した理由としては 2 つ要因があり秋田沖の洋上風力発電及び由利高原の風力発電に注力するため、もう一つが建設予定地までの勾配がきつく、カーブもきつくて曲がれないことから撤退に至ったと聞いている。

Q、事業者の状況が議員にはどのように伝わっているのか、なぜ情報が少なくて賛成反対の立場を判断しかねているのか。

A、災害リスクと健康リスクの面についての情報が足りないと感じている。議員全員に対しても説明はいただいていたが、個別で事業者に話を伺った際に現在はその 2 点については決まっておらず、2028 年の準備書提出後から評価書の前が実質的に計画を中止できる決断の期限だというような説明を受けていたため、それまでにこの 2 点について情報が明らかにされると考えている。

Q、4 月に説明会に参加し、風力発電事業の計画が 2 段階目でびっくりしたのだが、この計画について議員の方は事前に察知していたのか。

A、2 月に市民向けの説明会が行われたと思うが、それと同じような内容は議員を対象として 2 社から受けている。興味ある議員はコモッセで行われた会議に顔を出したりなどで情報を得ており、時間差があると思うが、議員全体としては事業者が市民への説明後に説明を受けている。

〈意見〉

・風車の建設費用と建設後に鹿角市にもたらす税収などのメリットを試算すると、この風力発電事業はギャンブルなのではないか。

※建設費の高騰などにより、業者にとって事業が赤字化してしまい、当初計画が履行されず頓挫する恐れがあるのではとの懸念をギャンブルと表現されたものと推察される。

・風力発電事業の説明会がコモッセや市内各所で開催されていた際にも、ほとんどの議員が参加していないのはおかしいのではないか。一般市民よりも深い知識を得て教えてくれなければ意義がない。率先して情報を調べ、一緒に考え市民に教えてほしい。

・風力発電事業を実際に行った際の雇用効果は限定的で期待できない。

・健康被害については実際に風車が稼働してからでないとわからないものであり、実際にできてからでは遅すぎる。実際に日本に限らず、海外でも被害が出ており、人が住むところから 10 キロ離すなどの対策が進められてきているのも聞いている。議員には他地域でどのよ

うな影響が及んでいるかといった積極的な情報収集をお願いしたい。
・低周波音について事業者からの説明では大したことはないとのことだったが、低周波振動についても調査をお願いしたい。
・バードストライクの発生を心配している。北海道の延幌町での調査でも事前の事業者調査と実際に風車が建ってからの事故の数では 10 倍の開きがあった。最初の予想の数字との乖離がなぜ起こったのかしっかり検証していただきたい。
・風力発電事業の環境アセスメントのもう一つの景観アセスメントをやっている事業者があり、事業者が事業者を評価して結果を提出する構図になっていることから、提出される結果が事業者に都合よく作られたものの可能性がある。議員はそうなっていないかしっかりチェックしていってほしい。